

お盆企画



鳥浜貝塚の 赤色漆塗り櫛 特別公開

公開期間 2014年8月14日(木)～17日(日)

場 所 福井県立若狭歴史博物館

展示解説 8月16日(土) 13:30～

○赤色漆塗り櫛

1975年の発掘調査で見つかりました。出てきたのは、貝混じりで有機物が堆積する土層で、北白川下層Ⅱ式の縄文土器(約6000年前)が出てくる層でした。



赤色漆塗り櫛の出土状況

櫛の大きさは、長さ約9cm、幅約8cm、厚み約1cmです。9本の櫛歯と、左右に角のような突起があります。板目取りしたヤブツバキの板から削り出されています。木地の表面を磨いて形を仕上げた

後、漆→赤色漆→赤色漆の順で櫛の全体に漆が塗られました。櫛歯の部分の木地が少し黒いのは、漆が酸化したためです。赤色の顔料には、水中の鉄バクテリアがつくった酸化鉄(ベンガラ)を用いています。赤色は、再生や復活を意味していると考えられています。

○シカの角

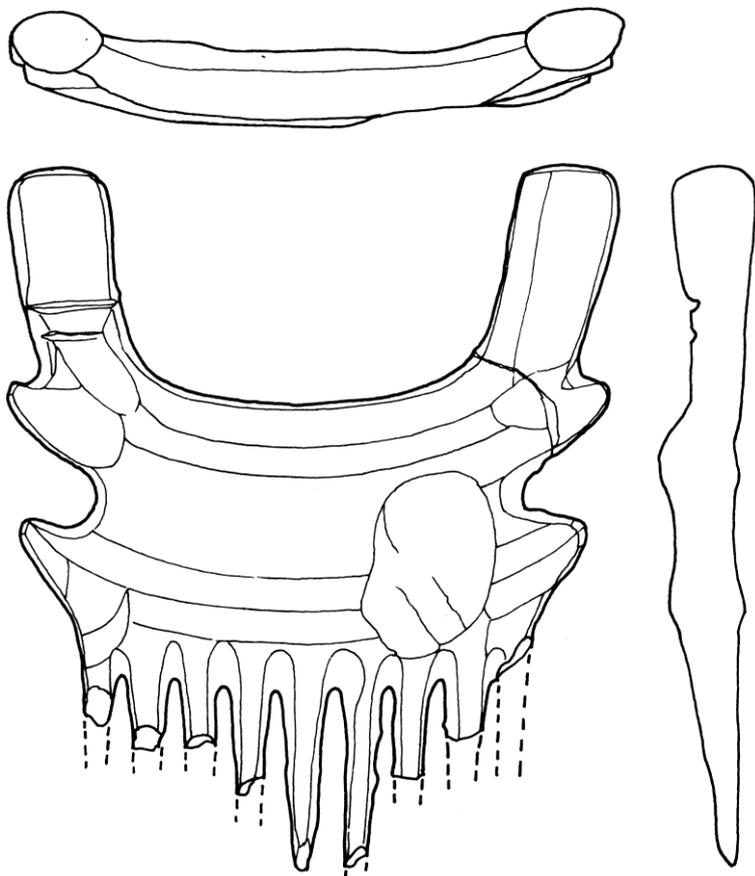
赤色漆塗り櫛の左右の突起は、シカの角を思わせませす。雄のシカの角は、毎年春に生えかわります。頭の皮がふくらみ、「袋角」という柔らかい皮につつまれて生えてきます。成長は早く、8月頃に生えそろうと血が止まり、皮がむけて堅い角になります。



ニホンジカの袋角

『朝日百科動物たちの地球』9巻より

こうした生えかわりから、シカの角は、永遠の生命や豊穡の象徴と考えられています。



赤色漆塗り櫛の実測図(ほぼ原寸大)

イメージ資料

東北地方の鹿踊(ししおどりの)「カシラ」

※赤色漆塗り櫛と関係はありません。



展示品リスト

- 1 赤色漆塗り櫛
- 2 作りかけの骨の櫛
- 3 ニホンジカの頭の骨
- 4 復元した縄文人の服装

お盆企画 鳥浜貝塚の赤色漆塗り櫛 特別公開
展示解説補足資料

発行日 平成26(2014)年8月16日
編集・発行 福井県立若狭歴史博物館